

景観に配慮した圃場整備前後における農村景観への印象について

- 地域住民と学生の持つ印象の違いに注目して -

Survey on impressions of rural landscape before and after farmland consolidation considering landscape

○西脇祥子*¹, 山路永司*¹

Shoko NISHIWAKI, Eiji YAMAJI

1.はじめに

国土の 6 割を山間が占め、平野部が少ない日本において中山間地域の農地は食料生産を支える上で重要な場である。近年は中山間地域の農村景観が注目され一部の農地は観光地としても賑わう一方で、作業性の低さと農家の高齢化や米の需要の低下が重なり耕作放棄地となってしまう場合も多い。

一般的に耕作放棄地の防止や持続的な農業生産活動の継続を目的として圃場整備が行われる。圃場整備は中山間地域の農地でも積極的に行われ、圃場の集積や整形により生産性が向上している。一方、圃場整備による圃場の集積・整形は農村の景観に大きく影響を与える。農村景観の構成要素である区画形状・区画割りを大きく変更するためである。農村景観については圃場整備事業による農村景観への影響を考慮し環境との調和、景観に配慮した圃場整備が推奨され、2006 年に農林水産省により農業農村整備事業における景観配慮の手引きが作成された。

2.目的

現在、景観の経済的評価や文化的景観の認知、印象、圃場整備事業の生態系等に関する研究は多くされているものの、圃場整備前後における農地景観への印象の変化についての調査はされていない。また、農業・農村の振興を考える上で講ずるべきとされる施策のうち特に農地の集積・集約についての実例の研究は少ない。以上を踏まえ、農業農村整備事業における景観配慮の手引きの作成後に圃場整備を行った地域において、圃場整備前後での景観への印象の違いを明らかにすることを目的とした。本研究では、圃場整備事業を行った地域内の農業従事者と学生に対しアンケート調査を行った結果を紹介する。

3.対象地区

調査対象地区として、新潟県柏崎市別俣地区を挙げる。別俣地区は久米・水上・細越の 3 集落から成り、水稻を主とした農業生産が活発に行われている。平成 22 年から 28 年中山間地域総合整備事業が行われた当地区は、別俣農村工房をはじめとする地区住民を中心とし農業を通じた地域おこしが活発な地区である。そのため農業従事者や地域住民の地域内農村景観に対する関心は高いと考えられる。別俣地区での地域活性化活動の柱として、地域の伝統的な郷土料理や農作業を通じた交流活動を行う「別俣農村工房」、地域の作物を使ったレストラン「きらら」、地域の子どもを中心として農業教育を行う「田んぼの学校」が挙げられる。

*¹ 東京大学大学院新領域創成科学研究科 Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo

キーワード：農村振興，中山間地域，農村景観

4.調査方法

調査は24個の形容詞対を用いたSD法を主としたアンケートによる。アンケートにおいては圃場整備前の写真として柏崎市に保存されていた整備工事前の農道・道路・圃場①・圃場②・道路から見た圃場の写真5枚と、その写真を参考に撮影した圃場整備後の写真5枚を利用した。アンケートは地域内の農業従事者17名を対象に地域の代表者を通じて配布・回収した。質問項目として回答者の基本的な情報の他、地域活性化活動の参加状況や地域内の景観についての単純な意見、回答者が考える理想的な農村景観・圃場整備前後それぞれの景観に対する印象についての質問を設定した。また予備的な調査として、東京大学大学院の学生を対象に別侯地区の農村景観の写真に対する印象アンケートを行った。

5.結果

アンケートの結果、地域内の農業従事者16名と、学生14名の有効な回答を得た。学生は3名が実家や親戚の手伝いで農業に触れる機会があったが、11名は農業とは関わりが無いとしていた。

農業従事者への調査の結果、圃場整備事業後の現在の景観に明らかな不満を持つ声は無く、すべての回答者が地域の農村風景の現状を「良い」もしくは「どちらかといえば良い」とした。更に、圃場整備事業により景観は向上したと考える回答者が多かった。ただし、現状に不満は無くとも事業の前後で比較をすると景観はどちらかといえば悪化したと感じる回答者が存在することも確認できた。

農業従事者と学生が考える「理想の農村景観」を示すグラフを図1に示す。グラフの形状はどちらも似通っていたが、動的な-静的な、近い-遠いの項目は農業従事者と学生の評価が逆転していた。農業従事者は動的な、近いと回答したのに対し学生は静的な、遠いと回答する傾向があった。農業従事者にとって農村景観のある地域は身近な生活の場であるが、農村・農業とは関わりが無い学生にとって農村景観は遠くから眺める静止画のような印象があると考えられる。また、素朴な-洗練されたの項目で最も差が大きく、学生は理想の農村景観は特に素朴であるという印象を持つことがわかった。また、表2に「理想の農村景観」と、農村景観の写真10枚のそれぞれの評価の相関係数を示した。その結果、農道及び圃場の写真に対する評価が逆転しており、農業従事者は圃場整備前の写真を理想に近いと評価しつつ最も理想に近いものは日常的に目にする可能性が最も高い道路の写真であった。

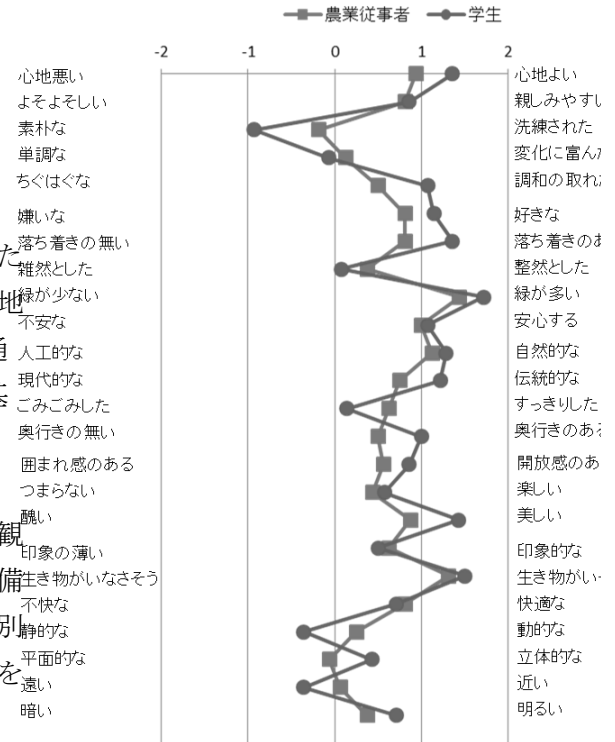


図1 「理想の景観」を表すグラフ

表1 「理想の景観」と地域内の景観写真の相関係数

		農業従事者	学生
農道	整備前	0.729	0.259
	整備後	0.478	0.675
道路	整備前	0.646	0.023
	整備後	0.788	0.559
圃場①	整備前	0.781	0.844
	整備後	0.603	0.732
圃場②	整備前	0.755	0.517
	整備後	0.676	0.709
道路から見た圃場	整備前	0.759	0.297
	整備後	0.542	0.104